

霊長類進化の科学

目 次

序章 霊長類学への招待	
——研究の歴史と分類の基礎……………	[松沢哲郎・高井正成・平井啓久] 1
1 霊長類の起源と日本の霊長類学の礎	1
2 霊長類研究の課題と京都大学霊長類研究所の足跡	7

第Ⅰ部 形をみる

第1章 過去を探る……………	15
1 サルの生まれた日	[高井正成] 15
2 アフリカ類人猿の進化	[國松 豊] 28
3 霊長類の共通祖先は夜行性だったか	[相見 満] 40
第2章 体を測る……………	53
1 形を追う執念	[遠藤秀紀] 53
2 頭蓋計測からみたニホンザルの進化	[毛利俊雄] 63
3 霊長類における成長・発達パターンの進化	[濱田 穰] 76

第Ⅱ部 生活をみる

第3章 生態……………	91
1 霊長類の群れのかたち	[杉浦秀樹・下岡ゆき子] 91
2 温帯の霊長類の生態学的適応	[半谷吾郎] 103
3 ヒトとサルの生活空間と境界のうつりかわり	[室山泰之・鈴木克哉] 114
第4章 行動……………	129
1 道具を使うサルたち	[渡邊邦夫] 129
2 チンパンジーの自己治療行動と人類の医療行為の進化	[M. A. HUFFMAN] 139
3 ボノボとチンパンジーの性行動	
——メスたちは性行動から何を得るのか	[橋本千絵] 156

第III部 心をみる

第5章 コミュニケーション	175
1 霊長類の音声とコミュニケーション	[香田啓貴] 175
2 テナガザルの歌に言語の起源をさぐる	[正高信男] 189
第6章 チンパンジーの視点	197
1 分類能力の進化	[田中正之] 197
2 社会的認知の発達と進化	[友永雅己] 208
3 ヒトとチンパンジーの認知発達	[松沢哲郎] 221
4 物の操作と道具使用の発達	[林 美里] 233
第7章 ヒトの視点	247
1 動的表情を処理する心のはたらき	[佐藤 弥] 247
2 言語理解と心の理解	[松井智子] 256

第IV部 脳をみる

第8章 発達と可塑性	271
1 進化的観点からみた霊長類脳の発達と老化	[林 基治] 271
2 中枢損傷によって失われた精緻運動機能の回復	[大石高生] 282
第9章 活動と制御	295
1 思考過程の記憶を電気活動でみる	[三上章允] 295
2 運動制御システムとしての前頭葉皮質	[宮地重弘] 308
3 サルの脳と行動から考えた	[脇田真清] 319

第V部 体をみる

第10章 生理と薬理	337
1 大型類人猿の雄性生殖器の進化	[松林清明・榎本知郎] 337

2 霊長類の生殖内分泌現象の特性	[清水慶子] 346
3 霊長類の成長に関する内分泌学的研究 ——ニホンザルを中心に	[鈴木樹理] 361
4 霊長類と麻酔 ——作用機序の解明と質の向上をめざして	[宮部貴子] 371
第 11 章 モデル動物としての適用と福祉	385
1 免疫・アレルギー分野での新展開	[中村 伸] 385
2 環境化学物質の霊長類応答	[浅岡一雄] 396
3 動物福祉への進化的視点	[上野吉一] 408
 第 VI 部 ゲノムをみる	
第 12 章 染色体と遺伝子	425
1 染色体進化から見えること	[平井啓久] 425
2 遺伝子から見たニホンザルの地域分化	[川本 芳] 440
3 テナガザル亜種・種分化の分子系統分析	[田中洋之] 450
第 13 章 生体分子の機能と進化	465
1 酵素の機能多様性と進化	[景山 節] 465
2 感覚受容体の退化と進化	[今井啓雄] 476
 あとがき	
読書案内	489
用語集	493
索引	505

れいちょうるいしん か がく
霊長類進化の科学

2007 年 6 月 25 日 初版第 1 刷発行

編 者 きょう と だいがく れいちょうるいけんきゅうじょ
京都大学霊長類研究所

発 行 者 本 山 美 彦

発 行 所 京都大学学術出版会

606-8305 京都市左京区吉田河原町 15-9 京大会館内
電話 075(761)6182 FAX 075(761)6190
URL <http://www.kyoto-up.or.jp/>

印 刷 所 株式会社太洋社

© Primate Research Institute, Kyoto University 2007

Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります

ISBN978-4-87698-723-8